山口県教育会現職研修助成事業
令和３年度　研修概要

校内の読書活動を起点とした地域連携読書の取組

平生町立佐賀小学校
教頭　内山　裕史

１　はじめに

本校は、室津半島の西部、平生町の南西部に位置する。本校は、後ろに大星山を背負い、前に瀬戸内海を望む、豊かな自然に囲まれた、全校児童４４名の小規模校である。

保護者や地域住民は教育に対する関心が高く、大変協力的である。子どもや学校は、地域住民の心のよりどころ的な存在であり、ＰＴＡ活動や学校支援活動が盛んである。

平成２２年度からはコミュニティ・スクールに指定され、学校運営協議会を中心に、ボランティアによる見守り活動、花いっぱい活動、環境整備、授業支援、校内の消毒など、多くの学校支援活動が行われている。

２　「自分の考えを多様な方法で伝える」

校内及び学校運営協議会で協議を重ね、「自分の考えを多様な方法で伝える」を、本校児童に身に付けさせたい資質・能力の中核としてとらえ、教育活動を展開している。この資質・能力を育むために、年間を通じて、「読書貯金」「読書ビンゴ」「読書リレー」などの読書活動に全校で取り組んできた。

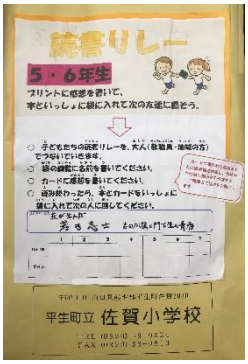
令和２年度から「読書が好きな子供を育てよう」という機運が一層高まり、保護者や地域の方と連携して、読書活動のよりいっそうの充実を図ることとなった。

３　「読書リレー」から「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」へ

学級内の友達と読後の感想を伝え合う「読書リレー」を「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」へと発展させることで、新たな地域連携の取組を創り出すことができると考え取り組むことにした。

この「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」では、児童・保護者・地域住民・教職員が一冊の本をバトンにして、読後の感想を交流することでたくさんの方の思いや願いに触れることができる。

コロナ禍において、地域の方と共に学ぶことが制限される中、読後の感想交流による「つながり」は、地域連携の新しい取組となった。



４　「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」の概要

（１）内容

○　読書リレーに、地域住民が参画する。
○　児童、保護者、地域住民、教職員が読書リレーを通じて、感想を交流する。
○　感想を書いたカードをもとに、ブックツリーを作り、校内や地域に掲示する。

（２）概要図

①５月～６月

	読書リレー（こども発） ○「学級の読書リレー」を、少しアレンジする。 ○こども発（学級の読書リレー） →おとな行きの読書リレー
学校の活動	活動の内容① ○１冊の本を学級で回して読んでいく。 ○読んだら、読書リレーのプリントに感想を書いて次の友達に回す。 ○学級内で無理のないペースで本を回す。

	読書リレー（おとな発） ○地域の大人の学びの力（読書の力）を生かす。 ○おとな発（地域と教職員による） →こども行きの読書リレー
学校の活動	活動の内容① ○学校司書（應潟）による「おすすめの本６冊」選書 ○まず、教職員が読み、感想をプリントに書く。

☆「読書リレー」の経過を履歴として残すために、回覧板の書式を本の袋に貼ることにした。

地域住民の読書リレー参加

地域の活動	活動の内容② ○本を読む。 ○読書リレーのプリントに感想を書く。 ・地域の方で回してもよい。また、家族の中で読んでもらってもよい。 ○学校に届ける。	活動の内容② ○本を読む。 ○読書リレーのプリントに感想を書く。 ・地域の方で回してもよい。また、家族の中で読んでもらってもよい。 ○学校に届ける。

地域から学校へ

②６月～７月

学校の活動	活動の内容③ ○地域の方からの感想を読む。 ○地域連携読書のふり返りや価値付けなど ・地域の方と読書による交流をして良かったこと、学んだことなど	活動の内容③ ○地域の方からの感想を読む。 ○たて割り班で、読書リレーをする。 ○読んだら、読書リレーのプリントに感想を書いて次の友達に回す。 ○無理のないペースで活動する。

★２学期の取組を担当者で協議

学校から家庭へ

③８月２２日～１０月５日（火）

家庭の活動	活動の内容④ ○家庭で読書をする。 ○感想のカードを読み、読書リレーを盛り上げる。 ・読書リレーによる交流をして良かったこと、学んだことなど本を話題にして、家族で語り合う。

・地域連携担当、図書館教育担当、学校司書、地域コーディネーター　地域連携活動支援員による取組の見直しを行った。
・取組について、アンケートを実施し、その結果を公表した。

学校へ

学校の活動	活動の内容⑤ ○掲示物の作成 ○活動のふり返り ○アンケートの実施 ○学校運営協議会による評価及び価値付け等

（３）取組の掲示

校舎入り口に、「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」のコーナーを設けた。読後の感想の交流ができるようにした。

5　取組の評価

（1）「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」のアンケートから

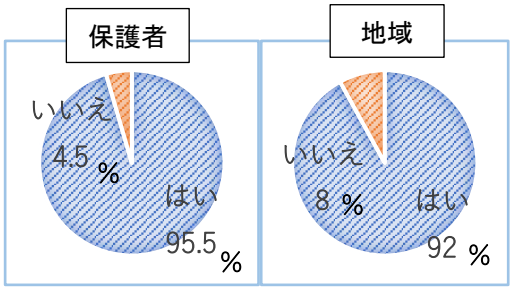
○　アンケートの結果と考察について、学校だよりに掲載した。

学校だより１２月号裏面

「読書リレー」のアンケート結果から

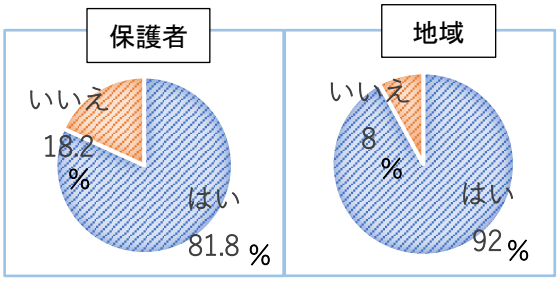
「読書リレー」実施後は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの集計結果については以下のとおりです。

○　読書リレーに参加することで読書に親しむことができましたか。



「読書リレー」をきっかけに、本に親しむことや読書をする時間の確保ができたことが分かります。

○　読書リレーをすることで、本の内容や読書リルーの取組について話すことがありましたか。



「読書リレー」が話題となり「つながり」が生まれたことが分かります。読後の感想の交流により、多様な考えに触れることができました。

「読書リレー」は、家庭での読書のきっかけづくりや、読書習慣に結びつく手立てとして、効果的であったと考えています。「読書リレー」による「つながり」を、地域連携の取組の１つとして、継続していくことが、「読書好きな子どもが育つ」地域づくり、「自分の考えを多様な方法で伝える」ことのできる児童の育成に結びつくと期待できます。

（2）学校評価アンケートの考察を学校だよりに掲載した。

○　学校評価アンケートの項目に、「保護者（あなた）は、お子さんに、読書を勧めている。」という項目がある。第１回目（７月実施）と第２回目（１２月実施）では、Ａ（そう思う）の回答の割合が１５％高くなった。

学校だより１月号裏面

設問７「読書」については、Ａ（そう思う）の回答の割合が１５％高くなりました。引き続き家庭でも読書習慣の定着に向けて、ご協力をお願いします。

6　終わりに

（1）「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」の素地

この取組を行うことができたのは、佐賀小学校がコミュニティ・スクールとして機能していることと、今までの読書活動が充実していることが素地となっている。

読書習慣の定着を図り読書が好きな子どもたちを育成するためには、この取組を継続していくことが必要である。

（2）社会に開かれた教育課程の実現に向けて

「読書リレー」を「地域連携読書（地域と一緒に読書リレー）」へと発展させて、地域とともに読書活動に取り組むことは、本校児童に身に付けさせたい資質・能力「自分の考えを多様な方法で伝える」の育成に地域全体で関わることとなった。

一冊の本から生まれるたくさんの心を紡ぎ、「読書好きな子ども」が育つ地域づくりにも貢献していきたい。